

## 6 歯・口腔の健康

目指すまちの姿6

**生涯を通じて自分の口で食べることができ、  
その人らしい生活ができるまち**

**～歯・口腔の健康づくりに主体的に取り組み  
健康を維持しましょう！～**

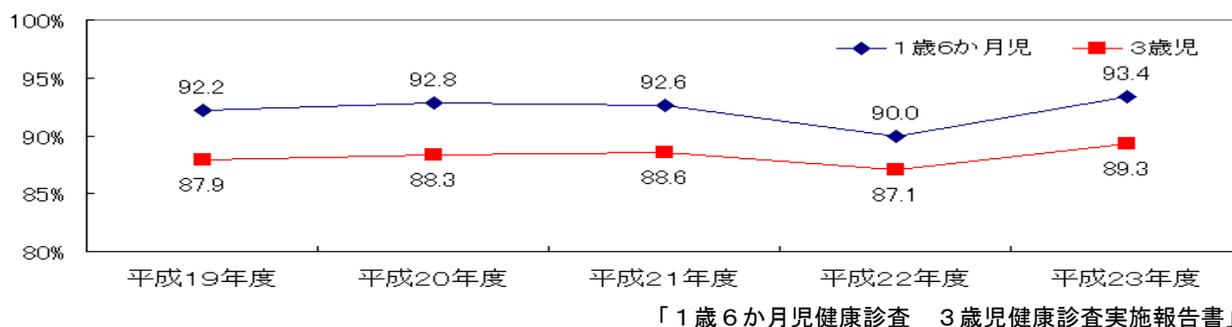
## 1 歯・口腔の健康に関する柏市の現状及び健康課題

歯・口腔の健康に関する「柏市の現状」から、「柏市の健康課題」を抽出します。

### 柏市の現状データ ①

#### ◆ 1歳6か月児及び3歳児の歯科健康診査受診率

図46 1歳6か月児及び3歳児健康診査結果〔歯科健康診査受診率〕の推移（平成19～23年度）



- 平成23年度1歳6か月児健康診査結果及び3歳児健康診査結果における歯科受診率については、「1歳6か月児」93.4%（対平成19年度比較：1.2%増）、「3歳児」89.3%（対平成19年度比較：1.4%増）です。

#### ◆ 1歳6か月児及び3歳児のむし歯の状況

図47 1歳6か月児のむし歯罹患率と一人平均むし歯本数の推移（平成19～23年度）

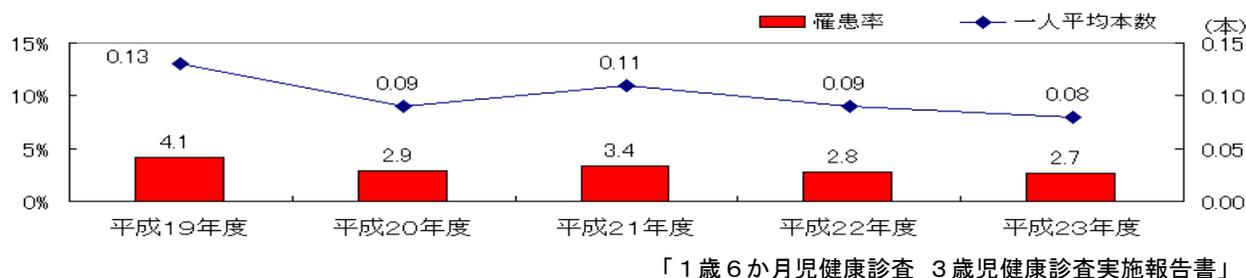
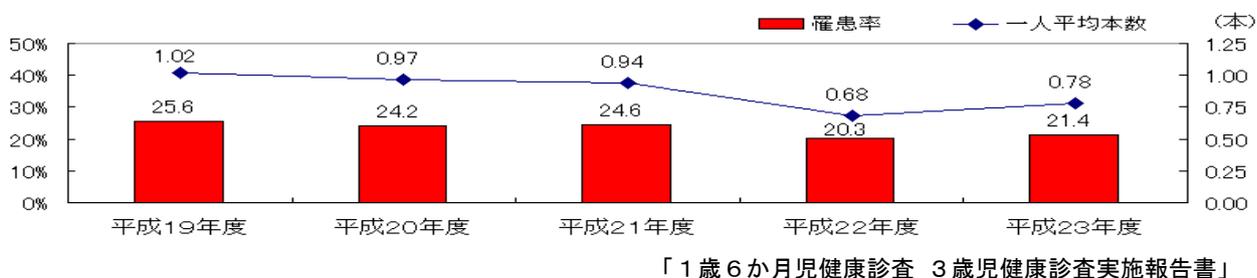


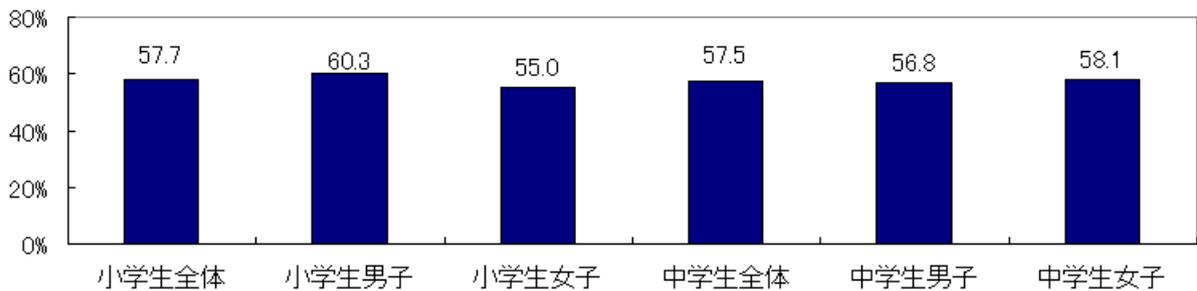
図48 3歳児のむし歯罹患率と一人平均むし歯本数の推移（平成19～23年度）



- 平成23年度1歳6か月児健康診査結果及び3歳児健康診査結果におけるむし歯罹患率と一人平均むし歯本数については、むし歯罹患率が「1歳6か月児」2.7%（対平成19年度比較：1.4%減）、「3歳児」21.4%（対平成19年度比較：4.2%減）、一人平均むし歯本数が「1歳6か月児」0.08本（対平成19年度比較：0.05本減）、「3歳児」0.78本（対平成19年度比較：0.24本減）です。

◆小学生及び中学生のむし歯の状況

図49 小学生・中学生のむし歯罹患率（平成23年度）

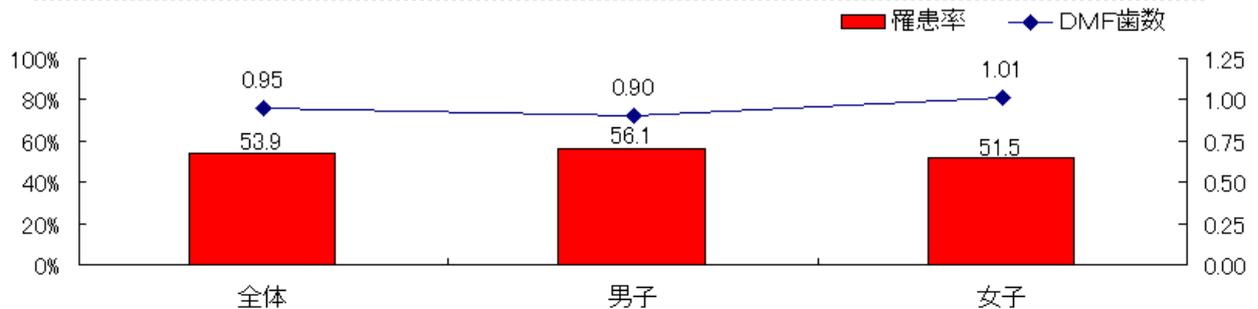


「平成23年度 児童生徒定期健康診断結果」受検者数：[小学生] 21,586人 [中学生] 9,493人

・小学生・中学生のむし歯罹患率については、「小学生」57.7%（男子60.3%、女子55.0%）、「中学生」57.5%（男子56.8%、女子58.1%）です。

◆12歳児のむし歯の状況

図50 12歳児のむし歯罹患率（平成23年度）

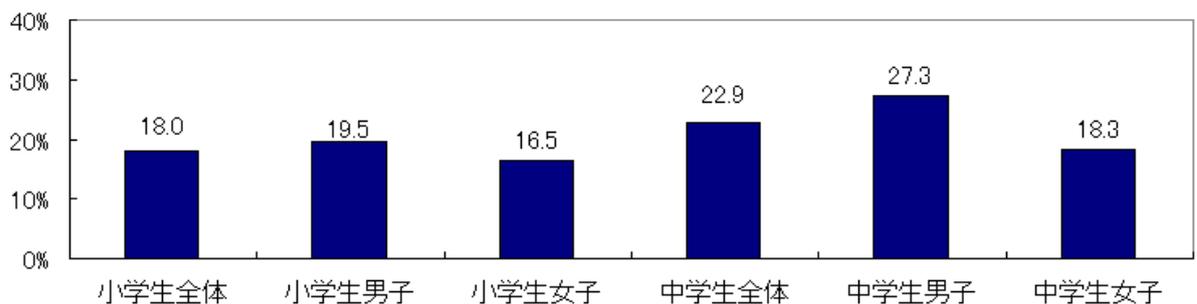


「平成23年度 児童生徒定期健康診断結果」受検者数：[小学6年生] 3,683人

・12歳児のむし歯罹患率については、53.9%（男子56.1%、女子51.5%）です。

◆小学生及び中学生の歯肉の状況

図51 歯肉炎を有する（歯周疾患要観察者を含む）小学生・中学生の割合（平成23年度）



「平成23年度 児童生徒定期健康診断結果」受検者数：[小学生] 21,586人 [中学生] 9,493人

・歯肉炎のある（歯周疾患要観察者を含む）小学生・中学生の割合については、「小学生」18.0%（男子19.5%、女子16.5%）、「中学生」22.9%（男子27.3%、女子18.3%）です。

◆現在歯・喪失歯の状況

図52 成人の現在歯・喪失歯の状況（平成23年度）

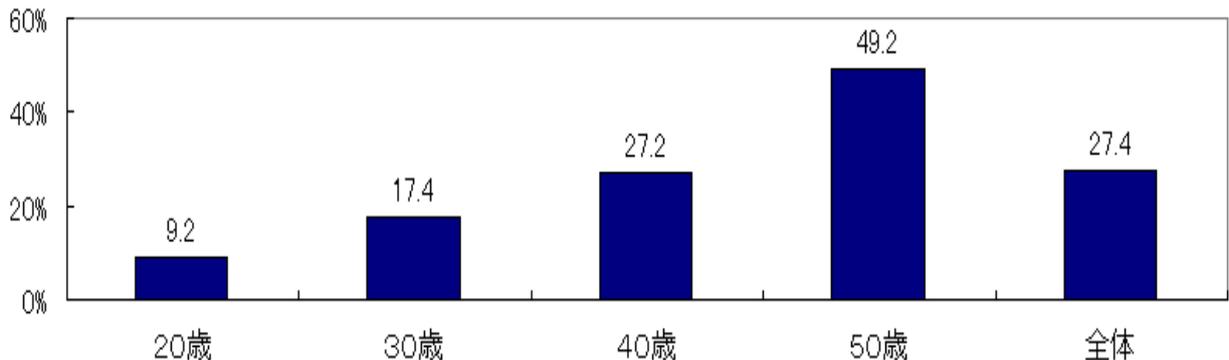


「平成23年度 歯科保健業務実施報告書」受診者数：817人

◆DMF指数

むし歯になったことがあるかについての指数です。治療していないむし歯（Decayed teeth）、むし歯で抜いてしまった歯（Missing teeth because of caries）、むし歯を治した歯（Filled teeth）を略したものです。集団における永久歯列のむし歯罹患状況を知るために用います。

図53 喪失歯を有する成人の割合（平成23年度）

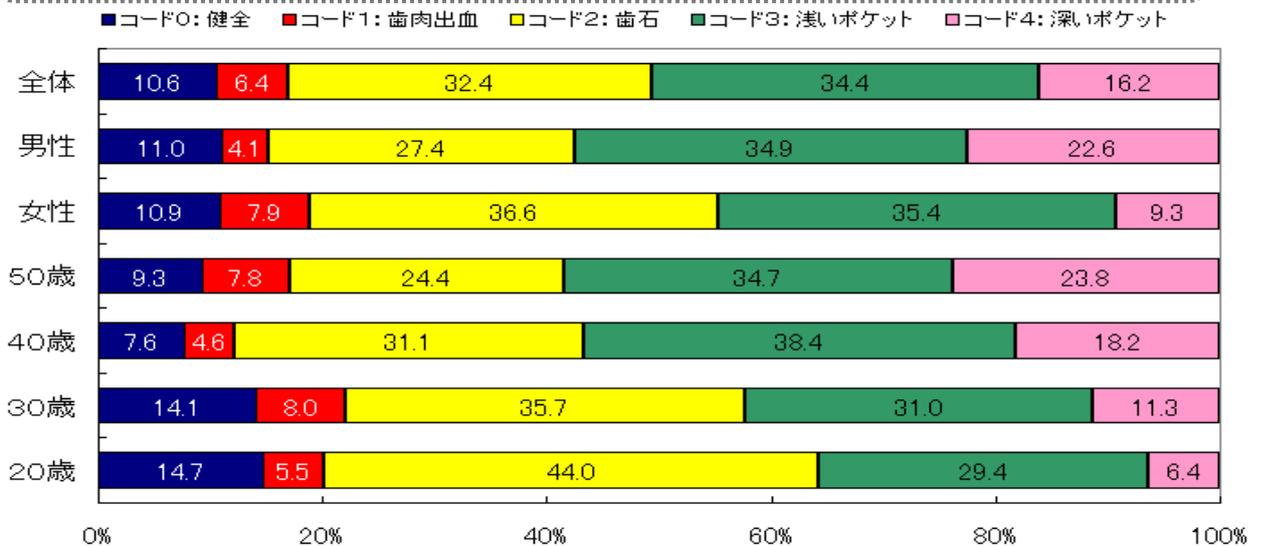


「平成23年度 歯科保健業務実施報告書」受診者数：817人

- ・現在歯・喪失歯の状況については、「現在歯数/人」28.3本、「健全歯数/人」17.0本、「未処置歯数/人」1.5本、「処置歯数/人」9.8本、「喪失歯数/人」0.5本、「DMF指数/人」11.9本です。
- ・1人平均喪失歯数については、「20歳」0.1本、「30歳」0.3本、「40歳」0.5本、「50歳」1.0本です。
- ・1人平均喪失歯数を性別でみると、男性0.5本、女性0.6本です。
- ・喪失歯を有する人の割合については、27.4%（20歳9.2%、30歳17.4%、40歳27.2%、50歳49.2%）です。

◆歯肉の状況

図54 成人の歯肉の状況 [CPI 指数] の状況 (平成23年度)



「平成23年度 歯科保健業務実施報告書」受診者数：817人

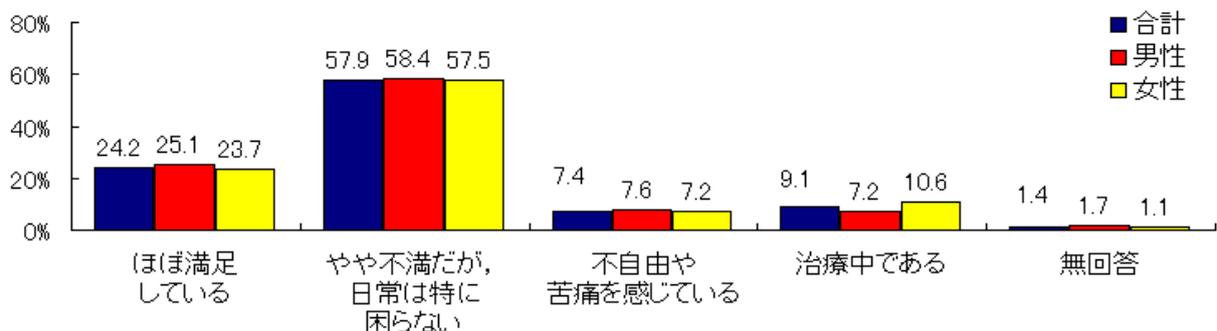
- ・成人の進行した歯肉炎（CPI 指数3以上）を有する人の割合については、50.6%（20歳35.8%、30歳42.3%、40歳56.6%、50歳58.5%）です。
- ・成人の進行した歯肉炎（CPI 指数3以上）を有する人の割合を性別で見ると、男性57.5%、女性44.7%です。

◆CPI 指数

歯周病に関する指数の一つです。地域歯周疾患指数と訳し、Community Periodontal Index を略したものです。専用の探針（プローブ）を用いて、歯肉出血・歯周ポケット・歯石の3指標により、コード0（健全）からコード4（深い歯周ポケット）まで5つの段階で評価します。

◆歯や口の状態（満足度）

図55 成人の歯や口の状態に関する満足度 (平成23年度)

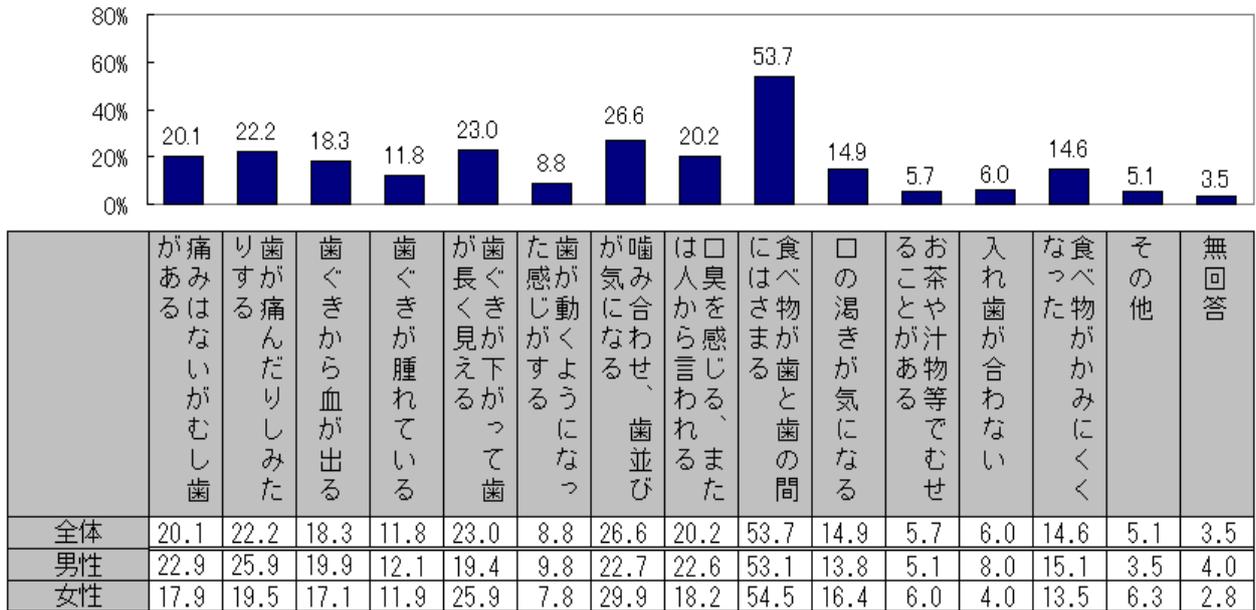


「平成23年度 柏市民健康意識調査等結果報告書」回答者数：1,782人

- ・歯や口の状態に関する満足度については、「ほぼ満足している」24.2%（男性25.1%、女性23.7%）、「やや不満だが、日常は特に困らない」57.9%（男性58.4%、女性57.5%）、「不自由や苦痛を感じている」7.4%（男性7.6%、女性7.2%）、「治療中である」9.1%（男性7.2%、女性10.6%）です。
- ・「ほぼ満足している」以外の『不満である』については、74.4%（男性73.2%、女性75.3%）です。

◆歯や口の状態（症状）

図56 成人の歯や口の症状（平成23年度）

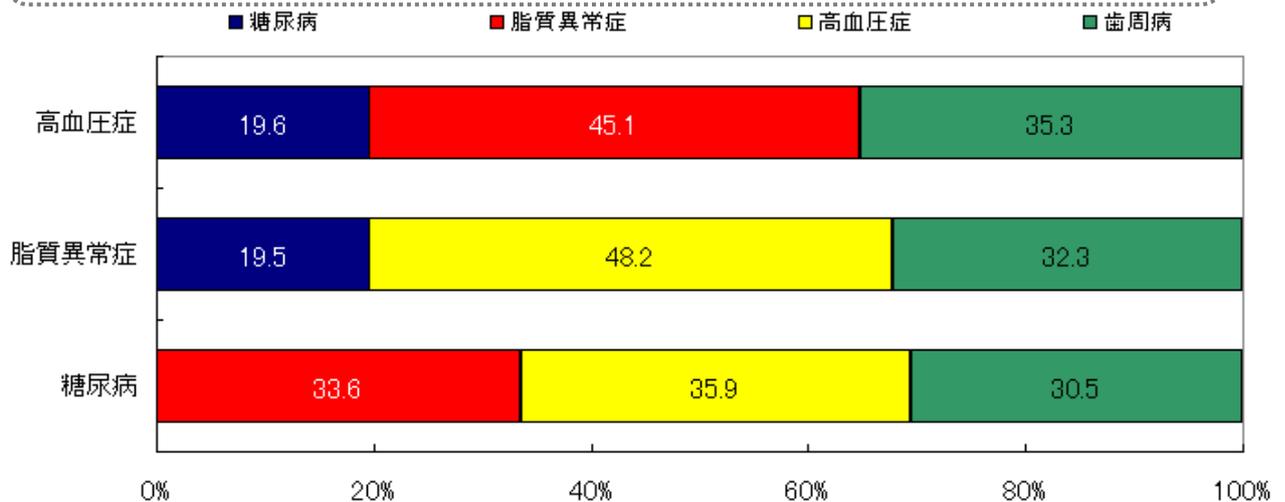


「平成23年度 柏市民健康意識調査等結果報告書」回答者数：1,782人

- ・歯や口の症状については、「食べ物が歯と歯の間にはさまる」53.7%（男性53.1%、女性54.5%）、「噛み合わせ、歯並びが気になる」26.6%（男性22.7%、女性29.9%）、「歯ぐきが下がる歯が長く見える」23.0%（男性19.4%、女性25.9%）、「歯が痛んだりしみたりする」22.2%（男性25.9%、女性19.5%）、「口臭を感じる、または人から言われる」20.2%（男性22.6%、女性18.2%）、「痛みはないがむし歯がある」20.1%（男性22.9%、女性17.9%）などです。

◆指摘を受けた上位3疾患（糖尿病、脂質異常症、高血圧症）と歯周病との関係

図57 これまでに指摘を受けたことがある症状 [上位3症状と歯周病との合併症関係]（平成23年度）



「平成23年度 柏市民健康意識調査等結果報告書」回答者数：1,782人

- ・糖尿病、脂質異常症、高血圧症の指摘を受けた人の3割以上は、歯周病の指摘を受けています。

柏市の現状から課題抽出

柏市の健康課題 ①

歯・口腔の健康づくりに関する知識の普及

各種健康被害を未然に防ぐために、市民がむし歯・歯周病が及ぼす健康影響に関する知識をより身につける必要があります。

《課題となる背景・理由》

- 現状データの特徴から、以下の点が明らかに
  - ・乳幼児期から学童期にかけて、むし歯がない割合が減少し、小学校低学年から歯肉炎を有していること
  - ・永久歯の初期段階にあたる、12歳児のむし歯罹患率が5割を超していること
  - ・40歳で喪失歯のある割合が、約3割であること
  - ・成人で4mm以上の歯周ポケットを有する割合が高く、今後保有歯数を保持できる口腔内状況にないことが想定されること
  - ・歯や口の状態に関する満足度に対し、実際の歯や口の状態は決して良い状態とはいえず、むし歯・歯周病が全身へ及ぼす健康影響に関する知識・意識が不十分であること
  - ・糖尿病、脂質異常症、高血圧症の指摘を受けた人の3割以上は、歯周病の指摘を受けていること
- 口腔機能（特に咀嚼機能）の維持・向上は、寿命の延伸、生活の質の向上に大きく関係すること
- 高齢期における口腔機能の低下は、低栄養を招くリスク要因の一つとなり、寿命の延伸に大きな影響を与えること
- 歯の喪失の主要な原因疾患は、むし歯・歯周病であり、歯・口腔の健康のためには、妊娠期から高齢者の生涯を通じて、むし歯・歯周病の予防が必須であること

◆歯周ポケット

歯とハグキの境目の溝のことを指します。この深さは健康なハグキでは1~2ミリ、中程度の歯周炎があると3~5ミリ、歯周病が進行した場合は6ミリ以上になることがあります。

◆咀嚼（そしゃく）

歯で噛むこと。咀嚼。

## 柏市の現状データ ②

### ◆1歳6か月児及び3歳児の歯科健康診査受診率

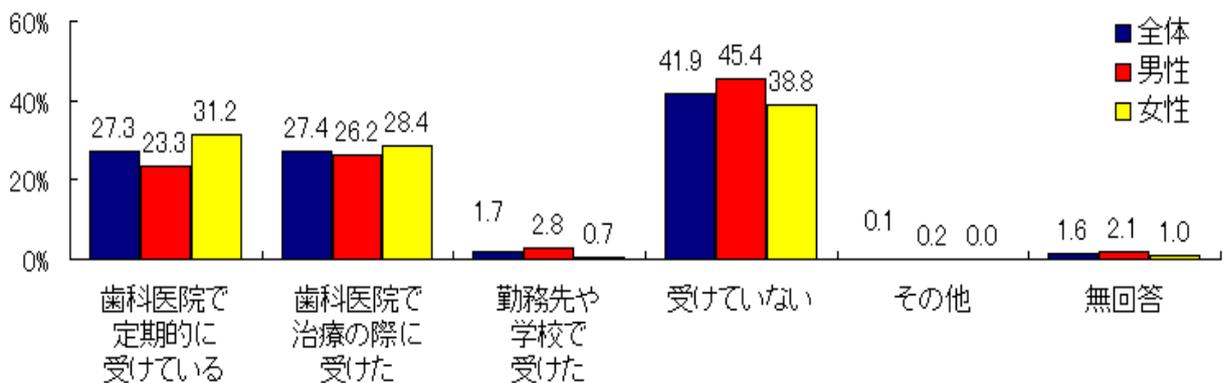
【再掲】図46【1歳6か月児及び3歳児健康診査結果〔歯科健康診査受診率〕の推移（平成19～23年度）】（P72）参照

### ◆歯や口の状態（満足度）

【再掲】図55【成人の歯や口の状態に関する満足度（平成23年度）】（P75）参照

### ◆歯科健康診査の受診状況

図58 成人の過去1年間の歯科健康診査受診状況（平成23年度）

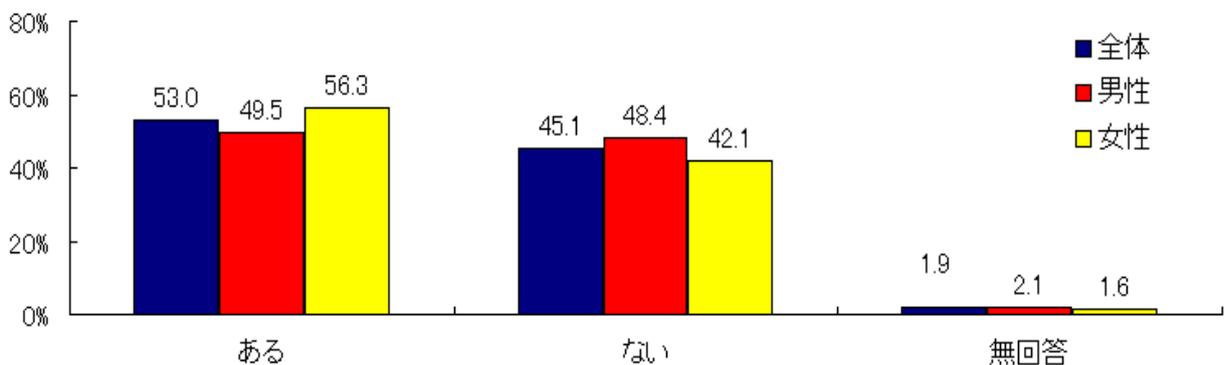


「平成23年度 柏市民健康意識調査等結果報告書」回答者数:1,782人

- ・成人の過去1年間の歯科健康診査受診状況については、『受けた』（＝「歯科医院で定期的に受けている」＋「歯科医院で治療の際に受けた」＋「勤務先や学校で受けた」）56.4%（男性52.3%、女性60.3%）、「受けていない」41.9%（男性45.4%、女性38.8%）です。

### ◆歯科医院による歯のケア実施状況

図59 成人の過去1年間の歯科医院による歯のケア実施率（平成23年度）

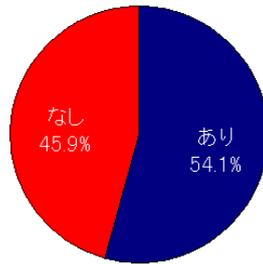


「平成23年度 柏市民健康意識調査等結果報告書」回答者数:1,782人

- ・成人の過去1年間の歯科医院による歯のケア（歯石の除去や歯の汚れの除去など）実施率については、53.0%（男性49.5%、女性56.3%）です。

◆3歳児のかかりつけ歯科医の有無

図60 3歳児健康診査結果 [かかりつけ歯科医の有無]

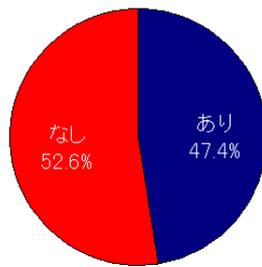


「1歳6か月児健康診査 3歳児健康診査実施報告書」

・3歳児でかかりつけ歯科医がいる割合については、54.1%です。

◆3歳児健康診査結果（フッ化物歯面塗布の経験状況）

図61 3歳児健康診査結果 [フッ化物歯面塗布の経験の有無]（平成23年度）



「1歳6か月児健康診査 3歳児健康診査実施報告書」

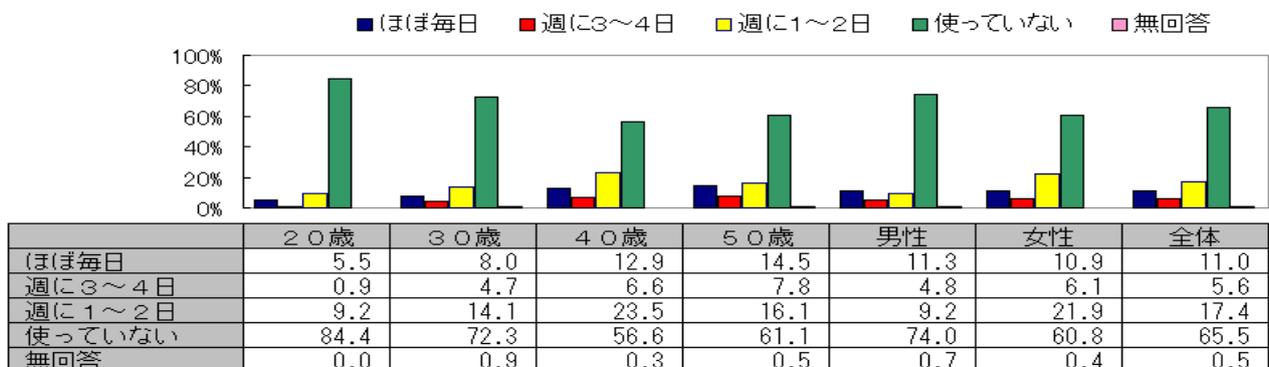
・3歳児のフッ化物歯面塗布の経験率については、47.4%です。

◆フッ化物歯面塗布（ふっかぶつしめんとふ）

フッ化物は、むし歯の予防に効果があると言われています。フッ化物歯面塗布はその方法の一つです。

◆歯間部清掃用補助道具の使用状況

図62 歯周疾患検診結果 [成人の歯間部清掃用補助道具（デンタルフロス・歯間ブラシ）の使用状況]



「平成23年度 歯科保健業務実施報告書」受診者数：817人

・成人の歯間部清掃用補助道具の使用状況については、『使っている』（＝「ほぼ毎日」＋「週に3～4日」＋「週に1～2日」）34.0%（男性25.3%、女性38.9%）、「使っていない」65.5%（男性74.0%、女性60.8%）です。

## 柏市の現状から課題抽出

### 柏市の健康課題 ② 定期的な歯科健康診査の受診勧奨

各種健康被害を未然に防ぐために、市民が定期的に歯科健康診査を受診することで、個々の歯・口腔の状況を自身で的確に把握し、歯・口腔の健康づくりに取り組む必要があります。

### 柏市の健康課題 ③ 歯・口腔の健康づくりのための環境整備

各種健康被害を未然に防ぐために、市民が生涯を通じて健やかな日常生活を送るうえで大きな役割を果たす、歯・口腔の健康づくりに取り組める環境を整備する必要があります。

#### 〈課題となる背景・理由〉

- 現状データの特徴から、以下の点が明らかに
  - ・成人で、過去1年間に歯科健康診査を受診していない割合が4割以上であること
  - ・3歳児で、かかりつけ歯科医がいない割合が4割以上であること
  - ・3歳児のフッ化物歯面塗布の経験率が、5割に満たないこと
  - ・成人の歯間部清掃用補助道具の使用率が低いこと
- 定期的な歯科健康診査の受診による継続的な口腔管理が、歯・口腔の健康状態に大きく寄与すること
- 定期的な歯科健康診査の受診により、自身の歯・口腔の健康状態を把握することができ、フッ化物歯面塗布、歯石除去、歯面清掃、個別歯口清掃指導といったプロフェッショナルケアに適切につながることに
- 成年期（概ね20～39歳）以降の歯周病においては、糖尿病や循環器疾患等の生活習慣病のリスク要因となることから、より一層の予防対策が求められていること

### 柏市の健康課題

- 1 『歯・口腔の健康づくりに関する知識の普及』
- 2 『定期的な歯科健康診査の受診勧奨』
- 3 『歯・口腔の健康づくりのための環境整備』

## 2 柏市の健康目標

「柏市の健康課題」に対し、「柏市の健康目標」を定め、また各健康課題に対応した目標値を定めます。

### 健康目標

健康課題の解消に向けた取り組みを積極的に行い、  
『生涯を通じて自分の口で食べることができ、その人らしい生活ができる  
まち』を目指します。

### 目標値

#### 1 『歯・口腔の健康づくりに関する知識の普及』

指 標		現状値 (平成23年度)	目標値 (平成34年度)
3歳児でむし歯がない人の割合		78.6%	90%以上
12歳児のDMF歯数		0.95本	0.70本
歯肉炎を有する（歯周疾患要観察者を含む）人の割合	小学生	18.0%	15%
	中学生	22.9%	20%
40歳で喪失歯のない人の割合		72.8%	75%
進行した歯肉炎（CPI指数3以上）を有する人の割合	20歳	35.8%	25%
	30歳	42.3%	25%
	40歳	56.6%	25%
	50歳	58.5%	25%
60歳代における咀嚼良好者の割合		—	80%

## 2 『定期的な歯科健康診査の受診勧奨』

指 標	現状値 (平成23年度)	目標値 (平成34年度)
過去1年間に歯科健康診査を受診した人の割合 (成人)	56.4%	65%

## 3 『歯・口腔の健康づくりのための環境整備』

指 標	現状値 (平成23年度)	目標値 (平成34年度)
歯や口の状態に関する満足度(成人)	24.2%	50%以上

## 3 柏市の健康目標を達成するための取り組み

「柏市の健康目標」を達成するため、次の取り組みを積極的かつ効果的に推進していきます。

- ①歯・口腔の健康づくりに関する知識の普及
- ②定期的な歯科健康診査の受診勧奨
- ③歯・口腔の健康づくりのための環境整備

市民が生涯を通じて自分の口で食べることができ、その人らしい生活ができるよう、主体的な歯・口腔の健康づくりに取り組むために、各関係機関と連携し、教育・啓発・相談・指導・環境整備等を行います。

市, 地域, 職場, 企業等	<ul style="list-style-type: none"> <li>●歯・口腔の健康づくりに関する正しい知識を普及啓発します。</li> <li>●地域における啓発活動(各種出前講座, 各種講演会等)</li> <li>●訪問型の啓発・指導活動</li> </ul>
市, 学校, 職場, 企業等	<ul style="list-style-type: none"> <li>●望ましい歯科保健行動を身につけられるよう, 子ども達への健康教育や, 職場での教育・啓発活動の充実を図ります。</li> <li>●保育園, 幼稚園, 学校における健康教育【学校保健等との連携】</li> <li>●職場での教育・啓発</li> </ul>
市, 地域, 学校, 職場, 企業等	<ul style="list-style-type: none"> <li>●定期的な歯科検診の実施及び受診勧奨の充実を図ります。</li> <li>●むし歯予防のための「フッ化物歯面塗布」や, 歯周病疾患予防のための「歯周疾患検診」等を推進します。</li> </ul>
市	<ul style="list-style-type: none"> <li>●市では, すべての取り組みにおいて,                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・各種店舗等での啓発(啓発物の配布・掲示等)</li> <li>・市広報による啓発(広報紙, HP, 回覧等)</li> <li>・各種健康啓発(教育)事業, 各種個別健康相談事業, 各種健康診査事業を通じた啓発(講演会, 健康指導等)</li> <li>・母子保健各種事業での教育・啓発・相談・指導(母子健康手帳の発行, 母親・両親学級, 新生児訪問, 幼児健康診査等における啓発・指導等)</li> <li>・各種健康啓発(教育)事業, 各種個別健康相談事業, 各種健康診査事業を通じた啓発(講演会, 健康指導等)</li> </ul> </li> </ul> <p>の活用を図ります。</p>

※「企業」には, 医療機関を含みます。

### 《柏市が取り組んでいる「歯・口腔の健康」に関する既存事業【抜粋】》

事業名 [担当部署]	事業の目的等
柏市口腔衛生大会支援事業 [保健福祉部保健福祉総務課]	公衆衛生の向上及び増進を図り、市民の健康な生活を確保する。
特殊歯科診療事業支援事業 [保健福祉部保健福祉総務課]	特殊歯科診療所を運営する柏市医療公社に対して、補助金を交付することにより、当該診療所の健全で円滑な運営を図る。
口腔機能向上事業 [保健福祉部福祉活動推進課]	口腔機能低下のおそれがある高齢者が、口腔の清潔保持、摂食・嚥下の機能を高める知識・技術を習得するための教室を実施する。
2歳の歯☆ピカランド及びフッ化物歯面塗布事業 [保健所地域健康づくり課]	主体的・積極的な健康づくりに取り組むことができる市民の増加を図る。
母子歯科保健事業 (歯っぴいカムカムかしわっ子作戦!!) [保健所地域健康づくり課]	家族ぐるみで、主体的・積極的な健康づくりに取り組めるように支援する。
訪問口腔衛生指導事業補助金 [保健所地域健康づくり課]	在宅療養者が口腔ケアにより、口腔機能を維持し、生活の質の向上を図る。
かしわ歯科相談室 [保健所地域健康づくり課]	歯・口腔の健康に関する個別の相談に応じ、必要な指導及び助言を行う。
歯周疾患検診 [保健所地域健康づくり課]	健康を維持し、食べる楽しみを享受できるよう、歯の喪失を予防する。

#### 分科会委員から

#### ～歯の健康からはじまる健康増進～

田中 譲治 (柏歯科医師会)

歯の健康は味覚や咀嚼による消化の助けだけでなく、認知症、糖尿病、心疾患、脳血管疾患、そしてがん予防にもつながることが明らかになっております。岐阜大学医学部の渡辺先生らのマウスの研究において、歯を削り取ったマウスは、記憶が正常マウスの五分の一以下となってしまう、さらに驚くことに、歯を治療することで記憶力が日ごとに向上したことを報告しております。65歳以上の4,425人を対象とした厚生労働省が行った調査において、4年間の認知症発症の割合で、歯が20本以上ある人が2.9%に対して、歯がほとんどなく入れ歯も使わない人は11.5%に上ったと報告されております。また、糖尿病についても歯周病治療により血糖値が下がるという報告や、心臓の冠状動脈に歯周病菌が見つかっており、歯周病による心疾患誘発も示されております。脳血管疾患についてもハーバード大のグループが行った男性4万人の追跡調査において、歯の少ない人は脳梗塞になる危険性が1.5倍高かったと報告されており、同志社大学の西周一先生は、唾液が発がん物質を無力化する強い力があることを示しております。

歯を大切にすることが、実際に医療費抑制につながることも、兵庫県歯科医師会の調査から報告がなされております。食べるとき、話すとき、笑うとき、歯の健康はかかせません。健康で美しい歯は、心身の健やかさと幸福な人生をもたらしてくれます。是非これまで以上に、歯の大切さを市民の方々に認識して頂き、健康で充実した生活を送って頂ければ幸いです。